

(1)施設基本情報シート

1.台帳番号	8730	3.利用用途別分類	図書館・展示施設								
2.施設名	宮崎科学技術館	4.利用圏域別分類	広域・市域								
5.所在地(町名・番地)	宮崎駅東一丁目2-2	15.設置根拠法令									
6.バス停	宮崎駅東口(170m)	16.設置条例	宮崎科学技術館条例								
7.開設年月日	昭和62年8月1日	17.市の計画	施設のあり方を検討中								
8.施設運営形態(指定管理者)	指定管理者(公益財団法人宮崎文化振興協会)	18. 外観									
9.指定管理期間	平成29年4月1日～平成32年3月31日										
10.用途地域	第二種住居地域										
11.財産区分	公共用										
12.施設概要 (設置の経緯や背景、施設の特徴や必要性など)	市制60周年記念事業として、「科学と遊ぶ」をテーマに建設された。科学及び科学技術に関する知識の普及及び啓発を図ることをその目的としている。プラネタリウム(世界最大級ドーム)上映やアポロ11号月面着陸船実物大模型設置など、子どもからお年寄りまでが楽しみながら科学を学べる県内唯一の施設である。建築から29年が経過していることから、躯体及び空調設備の劣化が目立ってきている。		19. 内部								
13.主な利用者	小学生以下の子どもと保護者(宮崎市民以外も利用可能)			20.避難所の指定(標高)	-		6.90 m				
14.利用者駐車可能台数	42台			21.投票所の指定	無						
22. 土地情報	土地面積	5,400.00 m ²				総延床面積	6,419.30 m ²				
	現況地目	宅地				取得価額計(開始時簿価計)	2698000千円 (一)				
	土地所有形態	所有				階数・構造(主たる建物)	地上4階・SRC・鉄骨鉄筋コンクリート				
	借受面積	0.00 m ²				24. 建物情報	建築年(主たる建物)	1987年			
23. 利用情報	(区分・単位)	平成28年度決算		平成27年度決算		法定点検(主たる建物)	対象				
		人・食	前年比%	人・食	前年比%	建物所有状況	市有物件				
	利用者数	160,285	100.8	158,950	-	借受面積	0.00 m ²				
	開館日数	307	100.7	305	-	耐震対応(主たる建物)	対応済				
利用率率	522	100.2	521	-	未利用スペース	0 m ²					
25. 収入	(区分・単位)	平成28年度決算		平成27年度決算		26. 支出	(区分・単位)	平成28年度決算		平成27年度決算	
		千円	前年度比%	千円	前年度比%			千円	前年度比%	千円	前年度比%
	市の収入計① (②+③)	32,427	103.0	31,490	-		市の支出計⑧ (指定管理料除く)	25,077	80.4	31,190	-
	使用料(減免後)②	32,192	103.1	31,214	-		施設のコスト	9,267	60.0	15,440	-
	その他③	235	85.1	276	-		事業のコスト	60	-	0	-
	《参考》 使用料減免額④	5,604	107.0	5,235	-		人に係るコスト	15,750	100.0	15,750	-
	指定管理者の収入計⑤	173,306	99.8	173,682	-		指定管理者の支出計⑨	166,625	98.0	170,003	-
	指定管理料⑥	169,042	99.5	169,850	-		施設のコスト	85,967	100.0	85,929	-
	利用料金収入	0	-	0	-		自主事業以外のコスト	22,156	104.5	21,205	-
	自主事業収入	2,562	107.6	2,382	-		自主事業のコスト	1,154	24.6	4,692	-
その他収入	1,702	117.4	1,450	-	人に係るコスト	57,348	98.6	58,177	-		
収入合計⑦	205,733	100.3	205,172	-	支出合計⑩	191,702	95.3	201,193	-		
27.使用料減免割合(%) (④÷(②+④))	15	103.2	14	-	28.工事請負費・修繕費	0	0.0	346	-		
29.施設経営における実質的な 収入(⑦-⑥)	36,691	103.9	35,322	-	31. 市負担額⑪ (⑧-①+⑥)	161,692	95.4	169,550	-		
30.指定管理者の収支差引 (⑤-⑨)	6,681	181.6	3,679	-	市負担割合(%) (⑪÷⑩)	84	100.1	84	-		
32.施設所管課	生涯学習課		33.施設主管課	生涯学習課							

(2)施設評価シート

1.台帳番号	8730	3.利用用途別分類	図書館・展示施設			
2.施設名	宮崎科学技術館	4.利用圏域別分類	広域・市域			
5.基礎評価						
評価指標	A: 品質:平均点以上、供給・財務:平均点以上 B: 品質:平均点未満、供給・財務:平均点以上 C: 品質:平均点以上、供給・財務:平均点未満 D: 品質:平均点未満、供給・財務:平均点未満				A	
	品質評価の評価(偏差値)				51.7	
	供給評価・財務評価の評価(偏差値)				50.6	
① 品質評価	築年数(棟平均)の評価が低い。 劣化度数(棟平均)の評価が低い。	指標の結果	評価指標	平成28年度	偏差値	平均
			築年数(棟平均)	29.000 年	47.3	25.800 年
			劣化度数(棟平均)	3.000 件	44.5	1.900 件
			耐震対応(棟平均)	5.000 点	54.9	4.700 点
			クレーム点数	5.000 点	55.3	4.500 点
			バリアフリー未対応(棟平均)	0.000 件	56.3	0.900 件
			評価値	51.7		
② 供給評価	床面積1㎡当たりの利用量率の評価が低い。 市負担額千円当たりの利用量の評価が低い。	指標の結果	評価指標	平成28年度	偏差値	平均
			日あたり利用者数	522.000 人	53.1	415.000 人
			建物1㎡当たりの利用量率	0.081 人	45.3	0.129 人
			建物1㎡当たりの利用量率	台		台
			土地1㎡当たりの利用量率	人		人
			市負担額千円当たりの利用量	0.991	44.3	1.585
			評価値	47.6		
③ 財務評価	建物1㎡当たり市負担額の評価が低い。 利用量当たりの市負担額の評価が低い。	指標の結果	評価指標	平成28年度	偏差値	平均
			市負担割合	84.350 %	55.4	94.220 %
			市負担額(ソフト)前年度比	95.600 %	64.2	99.170 %
			建物1㎡当たりの市負担額	25.188 千円	47.1	23.357 千円
			土地1㎡当たりの市負担額	千円		千円
			利用量当たりの市負担額	1.009 千円	47.5	0.892 千円
			評価値	53.6		
品質評価の分布図			供給評価・財務評価の分布図			
	品質評価(横) / 供給・財務評価(縦)			供給評価(横) / 財務評価(縦)		

(2) 施設評価シート

施設評価(H29)		平成29年度	
台帳番号	8730	利用用途別分類	図書館・展示施設
施設名	宮崎科学技術館	利用圏域別分類	広域・市域
1	基礎評価の分析(総括)	供給評価が低い。昭和62年に建築され30年が経過し、施設の部分的な経年劣化が見られるが、概ね良好な状況である。また、展示品等の更新が入館者増加(基礎評価改善)の要因であるが、容易に対応できない状況である。今後は生涯学習という切口だけでなく、多様な分野との連携を図る必要がある。	
2	品質評価分析 ※平均点未満の評価指標、平均点未満の原因等	【評価指標】築年数・劣化度数 【原因】昭和62年の建設から30年経過しているが、運営に影響を及ぼす程の劣化・損傷は見られない。	
3	供給評価の分析 ※平均点未満の評価指標、平均点未満の原因等	【評価指標】床面積1㎡当たりの利用率 【原因】展示施設のため展示品・機器類の占有率が高いため。 【評価指標】市負担額千円当たりの利用量 【原因】プラネタリウムを含むソフト部門の比率が高いため。	
4	財務評価の分析 ※平均点未満の評価指標、平均点未満の原因等	【評価指標】建物1㎡当たりの市負担額・利用料当たりの市負担額 【原因】利用料を徴収しているが、利用料が低いうえに減免対象となる教育機関等の利用が多いため。	
5	定性的な要素の分析(総括)	理科を専門とする指導主事が配置されており、施設見学に訪れる小・中学生を対象に学習指導要領と整合性のとれた利活用がなされている。	
6	半径1km以内にある近隣施設の有無。有の場合は施設名	下原ふれあい広場、宮崎市宮崎東地区交流センター、介護認定審査室、下原町第2自転車保管所、下原街区公園、下原町自転車保管所、江平自転車歩行者道路公衆便所(下原町)、宮崎市男女協同参画センター、宮崎駅北自転車駐車場、宮崎駅自転車駐車場、宮崎市橘通東3丁目(Y.Y PARK)、別府街区公園、老松団地、宮崎小学校、宮崎市教育情報研修センター、宮崎中学校のほか6施設	
7	利用圏域内にある市の類似(利用用途別分類が同じ)施設の有無。有の場合は施設名	みやざきアートセンター、大淀川学習館、宮崎市立図書館、みやざき歴史文化館、宮崎市生目の杜遊古館、宮崎市安井息軒記念館、宮崎市佐土原歴史館、宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館、佐土原総合文化センター(佐土原図書館)	
8	利用圏域内の県、民間の類似(利用用途別分類が同じ)施設の有無。有の場合は施設名	宮崎県立図書館、宮崎県立美術館、宮崎県立博物館	
9	防災対策施設としての位置づけの有無。有の場合は内容	なし	
10	交通事情(幹線道路および公共交通機関)の状況	宮崎駅東口から徒歩2分程度に位置しており、施設前にはバス停留所(宮崎駅東口)が設置されている。	
11	施設の所在地付近における現在人口および将来人口の動向	宮崎市全体 【現在の人口】399,979人(平成28年10月1日現在 現住人口) 【将来の人口】355,433人(平成52年10月1日時点 国立社会保障・人口問題研究所推計値)	
12	将来の修繕更新に係る見込み(建て替えの時期・事業費(概算))	【建て替えの時期】2030年代 【建て替えの事業費(概算)】28.5億円程度	
13	その他総合評価に勘案すべき事項(包括外部監査の結果・対応、他自治体との比較など)	平成23年度 包括外部監査で指摘のあった、備品の管理や財務状況の確認について、適時行うようにしている。多くの自治体がプラネタリウムを保有している。	

(2) 施設評価シート

施設評価(H29)			平成29年度
台帳番号	8730	利用用途別分類	図書館・展示施設
施設名	宮崎科学技術館	利用圏域別分類	広域・市域
14	総合評価(案)(総括)	公共交通の結節点である宮崎駅の周辺は、今後、道路整備の進捗に伴い民間投資の促進等が予測されており、交通の流れが大きく様変わりする影響を受けて、周辺環境や施設利用者の形態も変わることが想定されているため、施設の検討条件にも影響が出る可能性があることから、引き続きあり方を検討することとする。	
15	建物の評価(案) ※継続、改修・更新、処分(廃止、売却・譲渡、貸付)から選択	継続。ただし、平成32年度までに施設のあり方を検討	
16	建物の評価(案)の理由	建設から29年が経過しており、近い将来に大規模な改修等が想定されることから、建物の長寿命化を図るとともに、他類似施設との整理・統合などのあり方を検討する。	
17	将来の修繕更新費用を削減する具体的な取組(案) ※15が「処分」以外のとき	老朽化が進行する各施設において、各施設単独の計画的な修繕更新の実施だけでは削減は困難であり、当総合評価(現施設の統合・集約等を含む)に基づく所管施設の整理等において、総額削減を図る。	
18	機能の評価(案) ※継続、改善、統合・集約、変更、移転、廃止から選択	継続。ただし、平成32年度までに施設のあり方を検討	
19	機能の評価(案)の理由	魅力ある施設を維持するために、プラネタリウム設備や常設展示の適時の入替えが必要であるが、既存展示品等は直近のリニューアルから14年が経過しており、内容の陳腐化が進んでいる。将来的には展示品等のリニューアルは不可避であるため、施設の老朽化による当建物自体とあわせて、機能面についてもあり方を検討する。	
20	将来の市負担額(ソフト)を削減する具体的な取組(案) ※18が「廃止」以外のとき	業務委託内容を検討し、指定管理料の削減を図る。	
21	経営の方向性(案) ※「総量の最適化」、「質の向上」、「投資の厳選」を踏まえた利用用途別分類の経営の方向性	新たな施設は建設せず、展示の目的や事業の内容、来場者の状況、地域性などを十分に考慮しながら、他の利用用途別分類の施設を含めて機能の統合・集約を進め、施設の数・面積を削減する。また、開館期間の見直しや複数施設の包括管理などによる効率的な施設経営、使用料の適正化に取り組む。	
22	アンケート(市民)	【パブリックコメント】意見なし	
24	アンケート(施設利用者)	意見なし	

(2) 施設評価シート

施設評価(H29)			平成29年度
台帳番号	8730	利用用途別分類	図書館・展示施設
施設名	宮崎科学技術館	利用圏域別分類	広域・市域
26	総合評価(総括)	公共交通の結節点である宮崎駅の周辺は、今後、道路整備の進捗に伴い民間投資の促進等が予測されており、交通の流れが大きく様変わりする影響を受けて、周辺環境や施設利用者の形態も変わることが想定されているため、施設の検討条件にも影響が出る可能性があることから、引き続きあり方を検討することとする。	
27	建物の評価 ※継続、改修・更新、処分(廃止、売却・譲渡、貸付)から選択	継続。ただし、平成32年度までに施設のあり方を検討	
28	建物の評価の理由	建設から29年が経過しており、近い将来に大規模な改修等が想定されることから、建物の長寿命化を図るとともに、他類似施設との整理・統合などのあり方を検討する。	
29	将来の修繕更新費用を削減する具体的な取組 ※28が「処分」以外のとき	老朽化が進行する各施設において、各施設単独の計画的な修繕更新の実施だけでは削減は困難であり、当総合評価(現施設の統合・集約等を含む)に基づく所管施設の整理等において、総額削減を図る。	
30	機能の評価 ※継続、改善、統合・集約、変更、移転、廃止から選択	継続。ただし、平成32年度までに施設のあり方を検討	
31	機能の評価の理由	魅力ある施設を維持するために、プラネタリウム設備や常設展示の適時の入替えが必要であるが、既存展示品等は直近のリニューアルから14年が経過しており、内容の陳腐化が進んでいる。将来的には展示品等のリニューアルは不可避であるため、施設の老朽化による当建物自体とあわせて、機能面についてもあり方を検討する。	
32	将来の市負担額(ソフト)を削減する具体的な取組 ※31が「廃止」以外のとき	業務委託内容を検討し、指定管理料の削減を図る。	
33	経営の方向性 ※「総量の最適化」、「質の向上」、「投資の厳選」を踏まえた利用用途別分類の経営の方向性	新たな施設は建設せず、展示の目的や事業の内容、来場者の状況、地域性などを十分に考慮しながら、他の利用用途別分類の施設を含めて機能の統合・集約を進め、施設の数・面積を削減する。また、開館期間の見直しや複数施設の包括管理などによる効率的な施設経営、使用料の適正化に取り組む。	

施設カルテ
(1)施設基本情報シート

平成29年度

1.台帳番号	8420	3.利用用途別分類	図書館・展示施設		
2.施設名	大淀川学習館	4.利用圏域別分類	広域・市域		
5.所在地(町名・番地)	下北方町5348-1	15.設置根拠法令			
6.バス停	大淀川学習館前(150m)	16.設置条例	大淀川学習館条例		
7.開設年月日	平成7年3月28日	17.市の計画	施設のあり方を検討中		
8.施設運営形態(指定管理者)	指定管理者(公益財団法人宮崎文化振興協会)	18. 外観			
9.指定管理期間	平成29年4月1日～平成32年3月31日				
10.用途地域	第二種住居地域		19. 内部		
11.財産区分	公共用				
12.施設概要 (設置の経緯や背景、施設の特徴や必要性など)	市制70周年記念事業の一つとして、また、大淀川浄化活動(市民運動)及び大淀川学習のシンボリックな施設として建設された。さらに、平成14年度の「水辺の楽校」、「里山の楽校」の整備により、「大淀川学習館」との3施設一体の総合的体験学習施設となっている。施設運営に支障をきたす不具合は生じていないが、近い将来、経年劣化による空調設備の不具合が想定される。				
13.主な利用者	小学生以下の子どもと保護者(宮崎市民以外も利用可能)	20.避難所の指定(標高)	指定避難所	11.00 m	
14.利用者駐車可能台数	148台	21.投票所の指定	無		
22. 土地情報	土地面積	14,390.90 m ²			
	現況地目	宅地			
	土地所有形態	所有			
	借受面積	0.00 m ²			
23. 利用情報	(区分・単位)	平成28年度決算		平成27年度決算	
		人・食	前年比%	人・食	前年比%
	利用者数	183,485	99.3	184,728	-
	開館日数	309	100.0	309	-
利用率	594	99.3	598	-	
24. 建物情報	総延床面積	2,880.04 m ²			
	取得価額計(開始時簿価計)	1315744千円 (-)			
	階数・構造(主たる建物)	地上2階・RC・鉄筋コンクリート			
	建築年(主たる建物)	2002年			
	法定点検(主たる建物)	対象			
	建物所有状況	市有物件			
	借受面積	0.00 m ²			
	耐震対応(主たる建物)	対応済			
	未利用スペース	0 m ²			
	25. 収入	(区分・単位)	平成28年度決算		平成27年度決算
千円			前年度比%	千円	前年度比%
市の収入計①(②+③)		297	95.5	311	-
使用料(減免後)②		0	-	0	-
その他③		297	95.5	311	-
《参考》 使用料減免額④		0	-	0	-
指定管理者の収入計⑤		81,375	100.0	81,396	-
指定管理料⑥		80,993	99.6	81,340	-
利用料金収入		0	-	0	-
自主事業収入		57	103.6	55	-
その他収入	325	32500.0	1	-	
収入合計⑦	81,672	100.0	81,707	-	
27.使用料減免割合(%) (④÷(②+④))	-	-	-	-	
29.施設経営における実質的な収入(⑦-⑥)	679	185.0	367	-	
30.指定管理者の収支差引(⑤-⑨)	4,982	△ 160.7	△ 3,101	-	
26. 支出	(区分・単位)	平成28年度決算		平成27年度決算	
		千円	前年度比%	千円	前年度比%
	市の支出計⑧(指定管理料除く)	750	-	0	-
	施設のコスト	0	-	0	-
事業のコスト	0	-	0	-	
人に係るコスト	750	-	0	-	
指定管理者の支出計⑨	76,393	90.4	84,497	-	
施設のコスト	37,683	87.5	43,053	-	
自主事業以外のコスト	5,450	97.8	5,573	-	
自主事業のコスト	3,840	88.0	4,364	-	
人に係るコスト	29,420	93.4	31,507	-	
支出合計⑩	77,143	91.3	84,497	-	
28.工事請負費・修繕費	0	-	0	-	
31. 市負担	市負担額⑪(⑧-①+⑥)	81,446	100.5	81,029	-
	市負担割合(%) (⑪÷⑩)	106	110.1	96	-
32.施設所管課	生涯学習課	33.施設主管課	生涯学習課		

(2)施設評価シート

1.台帳番号	8420	3.利用用途別分類	図書館・展示施設		
2.施設名	大淀川学習館	4.利用圏域別分類	広域・市域		
5.基礎評価					
評価指標	A: 品質:平均点以上、供給・財務:平均点以上 B: 品質:平均点未満、供給・財務:平均点以上 C: 品質:平均点以上、供給・財務:平均点未満 D: 品質:平均点未満、供給・財務:平均点未満				A
	品質評価の評価(偏差値)				55.0
	供給評価・財務評価の評価(偏差値)				52.0
①品質評価	指標の結果	評価指標	平成28年度	偏差値	平均
		築年数(棟平均)	16.900 年	57.5	25.800 年
		劣化度点数(棟平均)	1.700 件	51.0	1.900 件
		耐震対応(棟平均)	5.000 点	54.9	4.700 点
		クレーム点数	5.000 点	55.3	4.500 点
		バリアフリー未対応(棟平均)	0.000 件	56.3	0.900 件
		評価値	55.0		
②供給評価	指標の結果	評価指標	平成28年度	偏差値	平均
		日あたり利用者数	594.000 人	55.3	415.000 人
		建物1㎡当たりの利用量率	0.206 人	57.5	0.129 人
		建物1㎡当たりの利用量率	台		台
		土地1㎡当たりの利用量率	人		人
		市負担額千円当たりの利用量	2.253	56.4	1.585
		評価値	56.4		
③財務評価	指標の結果	評価指標	平成28年度	偏差値	平均
		市負担割合	105.580 %	43.8	94.220 %
		市負担額(ソフト)前年度比	100.500 %	44.7	99.170 %
		建物1㎡当たりの市負担額	28.279 千円	42.2	23.357 千円
		土地1㎡当たりの市負担額	千円		千円
		利用量当たりの市負担額	0.444 千円	59.4	0.892 千円
		評価値	47.5		
品質評価の分布図					
品質評価(横) / 供給・財務評価(縦)	供給評価(横) / 財務評価(縦)				

(2) 施設評価シート

施設評価(H29)		平成29年度	
台帳番号	8420	利用用途別分類	図書館・展示施設
施設名	大淀川学習館	利用圏域別分類	広域・市域
1	基礎評価の分析(総括)	品質・供給評価が高く、財務評価が低い。平成7年に建築され21年が経過し、施設の経年劣化が生じ始めている。加えて、入館料等の徴収を行っていないことが評価の要因と考えられる。	
2	品質評価分析 ※平均点未満の評価指標、平均点未満の原因等	なし	
3	供給評価の分析 ※平均点未満の評価指標、平均点未満の原因等	なし	
4	財務評価の分析 ※平均点未満の評価指標、平均点未満の原因等	【評価指標】市負担割合・建物1㎡当たりの市負担額 【原因】入場料無料施設であり、運営経費全てが指定管理料によって賄われているため。 【評価指標】市負担額(ソフト)前年度比 【原因】当施設についてもコスト縮減しているが、比較対象施設と比べて、縮減率が低いため。	
5	定性的な要素の分析(総括)	自然学習・体験学習の場として幼児、小中学生に利用されるとともに、憩いや癒しの場としても高齢者を含む広範な世代に利用されている施設である。各種イベントを開催することで、来館者数が増加傾向にある。	
6	半径1km以内にある近隣施設の有無。有の場合は施設名	消防局平和台無線局中継局舎、西町街区公園、南街区公園、平和が丘団地、五十鈴川排水ポンプ場、宮崎市消防団瓜生野分団第1部消防団車庫、宮崎市消防団大宮分団第6部消防団車庫、小松浄化第2施設	
7	利用圏域内にある市の類似(利用用途別分類が同じ)施設の有無。有の場合は施設名	みやざきアートセンター、宮崎科学技術館、宮崎市立図書館、みやざき歴史文化館、宮崎市生目の杜遊古館、宮崎市安井息軒記念館、宮崎市佐土原歴史館、宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館、佐土原総合文化センター(佐土原図書館)	
8	利用圏域内の県、民間の類似(利用用途別分類が同じ)施設の有無。有の場合は施設名	宮崎県立図書館、宮崎県立美術館、宮崎県立博物館	
9	防災対策施設としての位置づけの有無。有の場合は内容	指定避難所	
10	交通事情(幹線道路および公共交通機関)の状況	県道宮崎・須木線の相生橋から1km程南東に位置し、施設の前にバス停留所(大淀川学習館前)が設置されている。	
11	施設の所在地付近における現在人口および将来人口の動向	宮崎市全体 【現在の人口】399,979人(平成28年10月1日現在 現住人口) 【将来の人口】355,433人(平成52年10月1日時点 国立社会保障・人口問題研究所推計値)	
12	将来の修繕更新に係る見込み(建て替えの時期・事業費(概算))	【建て替えの時期】2040-2050年代 【建て替えの事業費(概算)】11億円程度	
13	その他総合評価に勘案すべき事項(包括外部監査の結果・対応、他自治体との比較など)	包括外部監査では特に指摘はない。 現在進行中の下北方浄水場改修事業による「里山の楽校」への影響を考慮して、大淀川学習館のあり方を検討する。	

(2) 施設評価シート

施設評価(H29)			平成29年度
台帳番号	8420	利用用途別分類	図書館・展示施設
施設名	大淀川学習館	利用圏域別分類	広域・市域
14	総合評価(案)(総括)	機能の再編や使用料の見直しなど、類似施設である「宮崎科学技術館」と一体的に検討する必要がある。「宮崎科学技術館」が位置する宮崎駅の周辺は、今後、道路整備の進捗に伴い民間投資の促進等が予測されており、交通の流れが大きく様変わりする影響を受けて、周辺環境や施設利用者の形態も変わることが想定されているため、施設の検討条件にも影響が出る可能性があることから、引き続きあり方を検討することとする。	
15	建物の評価(案) ※継続、改修・更新、処分(廃止、売却・譲渡、貸付)から選択	継続。ただし、平成32年度までに施設のあり方を検討	
16	建物の評価(案)の理由	建設から21年が経過するが、著しい劣化は見られず基礎評価も良好である。将来的な施設のあり方を見極めながら、必要な補修等を実施していく。	
17	将来の修繕更新費用を削減する具体的な取組(案) ※15が「処分」以外のとき	老朽化が進行する各施設において、各施設単独の計画的な修繕更新の実施だけでは削減は困難であり、当総合評価(現施設の統合・集約等を含む)に基づく所管施設の整理等において、総額削減を図る。	
18	機能の評価(案) ※継続、改善、統合・集約、変更、移転、廃止から選択	継続。ただし、平成32年度までに施設のあり方を検討	
19	機能の評価(案)の理由	大淀川学習館全体(大淀川学習館・里山の楽校・水辺の楽校)のあり方を検討する。	
20	将来の市負担額(ソフト)を削減する具体的な取組(案) ※18が「廃止」以外のとき	業務委託内容を検討し、指定管理料の削減を図る。	
21	経営の方向性(案) ※「総量の最適化」、「質の向上」、「投資の厳選」を踏まえた利用用途別分類の経営の方向性	新たな施設は建設せず、展示の目的や事業の内容、来場者の状況、地域性などを十分に考慮しながら、他の利用用途別分類の施設を含めて機能の統合・集約を進め、施設の数・面積を削減する。また、開館期間の見直しや複数施設の包括管理などによる効率的な施設経営、使用料の適正化に取り組む。	
22	アンケート(市民)	【パブリックコメント】意見あり(別紙 9ページ参照)	
24	アンケート(施設利用者)	意見あり(別紙 18ページ参照)	

(2) 施設評価シート

施設評価(H29)		平成29年度
台帳番号	8420	利用用途別分類 図書館・展示施設
施設名	大淀川学習館	利用圏域別分類 広域・市域
26	総合評価(総括)	機能の再編や使用料の見直しなど、類似施設である「宮崎科学技術館」と一体的に検討する必要がある。「宮崎科学技術館」が位置する宮崎駅の周辺は、今後、道路整備の進捗に伴い民間投資の促進等が予測されており、交通の流れが大きく様変わりする影響を受けて、周辺環境や施設利用者の形態も変わることが想定されているため、施設の検討条件にも影響が出る可能性があることから、引き続きあり方を検討することとする。
27	建物の評価 ※継続、改修・更新、処分(廃止、売却・譲渡、貸付)から選択	継続。ただし、平成32年度までに施設のあり方を検討
28	建物の評価の理由	建設から21年が経過するが、著しい劣化は見られず基礎評価も良好である。将来的な施設のあり方を見極めながら、必要な補修等を実施していく。
29	将来の修繕更新費用を削減する具体的な取組 ※28が「処分」以外のとき	老朽化が進行する各施設において、各施設単独の計画的な修繕更新の実施だけでは削減は困難であり、当総合評価(現施設の統合・集約等を含む)に基づく所管施設の整理等において、総額削減を図る。
30	機能の評価 ※継続、改善、統合・集約、変更、移転、廃止から選択	継続。ただし、平成32年度までに施設のあり方を検討
31	機能の評価の理由	大淀川学習館全体(大淀川学習館・里山の楽校・水辺の楽校)のあり方を検討する。
32	将来の市負担額(ソフト)を削減する具体的な取組 ※31が「廃止」以外のとき	業務委託内容を検討し、指定管理料の削減を図る。
33	経営の方向性 ※「総量の最適化」、「質の向上」、「投資の厳選」を踏まえた利用用途別分類の経営の方向性	新たな施設は建設せず、展示の目的や事業の内容、来場者の状況、地域性などを十分に考慮しながら、他の利用用途別分類の施設を含めて機能の統合・集約を進め、施設の数・面積を削減する。また、開館期間の見直しや複数施設の包括管理などによる効率的な施設経営、使用料の適正化に取り組む。